

活動成果報告書

平成25年度（第17回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

にいかわ

新川医療圏における周産期地域連携ネットワーク

～周産期医療と母子保健の連携強化に向けた取り組み～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

富山県新川厚生センター 地域保健グループ

代表者：吉田 智子

勤務先：富山県新川厚生センター

所 属：企画管理課企画調整班

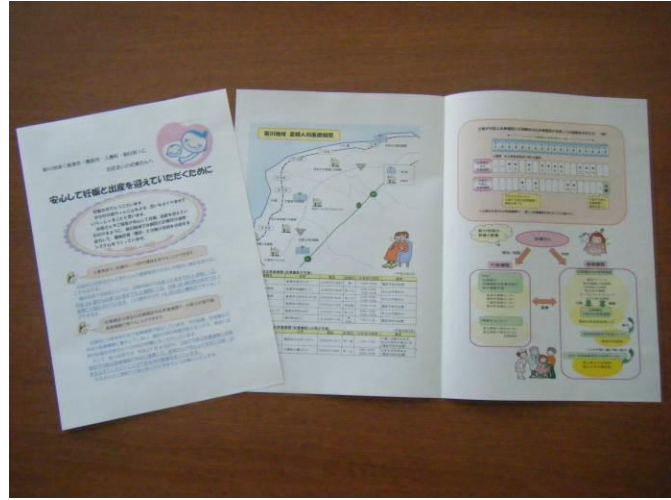
所在地：〒938-0025

富山県黒部市堀切新343

T E L：0765-52-1224

F A X：0765-52-4440

E-Mail：tomoko.yoshida@pref.toyama.lg.jp

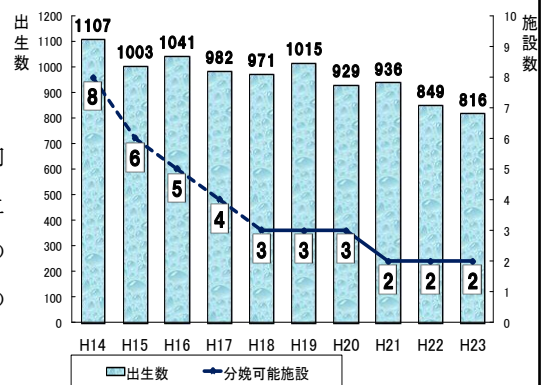


◇活動方針

1 新川医療圏の概要及び活動の背景

新川医療圏は県東部の魚津市、黒部市、入善町、朝日町で構成され、人口125,441人（平成24年10月1日）、高齢化率29.7%、平成23年出生数816人（人口千対6.5）である。産科医療機関の動向を下図に示す。

平成14年当時8施設あった分娩可能な医療機関がその後徐々に減少し、平成21年3月以降、黒部市民病院（地域周産期母子医療センターとして産科・小児科（NICU3床）を備えている）と入善町の診療所1施設の合計2施設である。このほか、圏域内には分娩を休止している産婦人科標榜医療機関が6施設ある。ただし、黒部市民病院は、妊娠33週未満、出生体重1,500g未満の高度な周産期医療には対応できないため、隣接する富山医療圏の周産期母子医療センターへ搬送している。



2 活動方針

分娩可能な医療機関の減少により生じた次の課題について関係者で対応策を協議し、必要な対策を講ずる。

[課題]

黒部市民病院に負担が集中し、妊婦健診の混雑、出産後の退院日数の短縮など妊婦に対する支援体制が疎かになりつつある。また、限られた医療スタッフや病床等の資源を有効に活用するための工夫が必要である。

活動成果報告書

◇活動内容

1 課題解決のための組織づくり

圏域内の産婦人科を標榜するすべての医療機関の医師・助産師をはじめ、管内市町や厚生センター職員で構成する「周産期地域連携ネットワーク会議」（以下、「連携会議」という。）を組織し、圏域内の周産期保健医療体制に何が起きているのか、課題の共有と必要な対策について話し合った。

2 セミオープンシステムの仕組みづくり

次に、連携会議で、特定の医療機関への負担の集中を避け、健診時間の十分な確保を図るため、妊婦健診は身近な地域の診療所で行い、分娩はあらかじめ提携している病院等で行うなど、医療機能に応じた役割分担を行うセミオープンシステムを、関係者の合意により圏域内全域で構築することとなった。

3 住民への広報活動

セミオープンシステムの仕組みを、地域住民にわかりやすく周知し利用いただくことが重要であると考え、リーフレット「安心して妊娠と出産を迎えていただくために」（表紙の写真）を作成・配布するとともに、地元ケーブルテレビや市町の広報、各関係機関のホームページや母子保健推進員の研修会、自治公民館等での説明会を開催し、住民の理解を求めた。

4 セミオープンシステムの評価

(1) 連携症例の把握

連携症例数を定期的に各医療機関へ照会し、その動向を把握した。連携症例数は年間約 130 件、年間出生数の約 16%を占めていた。

(2) 連携症例とそれ以外の症例との産科リスクの比較

地域周産期母子医療センター(黒部市民病院)では、連携した症例と自院で継続管理した症例のリスク比較を行った。比較の項目として、妊婦に関しては分娩週数、所要時間、分娩時出血量、帝王切開率等であり、新生児に関しては、臍帯動脈血 pH、NICUへの入院等について検討した。両群を比較した結果、明らかな差は認められなかった。

(3) 利用者の満足度評価

連携体制を利用して出産した産婦を対象に、産後 1 か月健診で満足度等の調査を実施した。毎年、約 9 割の産婦が「満足・良かった」と回答し、その理由として大多数の産婦が「定期健診では充分話を聞いてもらえてよかった」「時間を気にせず相談でき安心できた」と回答していた。その一方で、「相互の病院が連携できているのか不安だった」「同じことを何度も聞かれた」など、医療機関の連携を不安に感じる意見もあった。

(4) 連携体制の周知に関する評価

産後 1 か月健診を受診した産婦への聞き取り調査の結果、「連携体制を知らなかった」と回答する産婦が約 3 割いた。また、「連携体制のことは知っていたが利用しなかった」と回答した産婦が半数いた。利用しなかった主な理由としては、「何となく不安」「連携のメリットがよくわからなかった」「大きな病院で一貫して診てもらいたい」等であった。

5 支援を必要とする妊産婦への早期支援体制の構築

連携会議では、支援が必要な妊産婦を早期に把握し、圏域内の関係者が連携しながら支援を強化していくための協議や事例検討会等を開催した。また、「どこに相談してよいかわからない。」と、夜間、黒部市民

活動成果報告書

病院併設の小児急患センターを訪れた産婦（産後8日＝退院3日）の事例を契機として、退院後間もない産婦のための「相談窓口啓発リーフレット」（左記）を関係者で共同作成し、すべての産婦に対し、退院前日に分娩機関の助産師から説明・配布をしていただくこととなり、現在も継続中である。また、黒部市民病院助産外来（妊娠26週）でのEPDS（産後うつ質問紙）の導入や、管内市町における全妊婦を対象とした保健師による妊娠届出時の面談等を通じて、妊娠・出産・育児期に支援を必要とする妊産婦への支援体制が整いつつある。

◇今後の計画

1 特にPRしたいこと

分娩機関の減少といった周産期医療の危機を契機として発足した連絡会議が、その後、周産期に関する諸課題を検討する会議へと発展した。これらの成果は、それまでの行政機関（管内市町と県保健所）及び周産期医療関係者等の良好な関係性に立脚するものであったと実感している。

また、セミオープンシステムの構築により、妊婦にとっては、居住地の身近な診療所等で健診を受けることができるという利便性を保ちながら、分娩を取扱う医療機関での妊婦健診の混雑緩和、待ち時間の短縮、相談時間の確保等の成果をあげることができた。また、分娩可能な2医療機関の負担軽減につながり、圏域内の周産期医療体制の安定的運営に結びついた。

なお、これら新川医療圏での取組みは、「周産期医療の地域医療連携」として、富山県周産期医療体制整備計画に反映されるとともに、周産期医療と母子保健の連携体制を強化する「富山県周産期地域連携ネットワーク事業」の創設につながった。

2 今後の計画

以上の取組みを通じて、当初の目的であった ①住民への不安の対応、②妊婦の利便性の向上、③安心して相談できる健診時間の確保、④分娩機関の負担軽減など、一定の成果をあげることができた。しかし、その一方で、①病院間の連携に対する妊婦の不安、②セミオープンシステムの周知や説明の不足、③セミオープンシステムを利用する妊婦数の伸び悩み、④連携症例のリスクの顕在化等の課題が浮き彫りとなり、連携体制を正しく理解してもらうための説明のあり方や啓発手段の改善、タイムリーな症例検討会等が必要であることが明らかになった。

特に、セミオープンシステムを利用した妊婦の症例を丁寧に検証することにより、適正な妊娠リスク評価や健診機関（診療所）と分娩機関（病院）の受診時期の見直しなど、より安全で安心できる体制構築に向けて、関係機関と協議を重ねていきたい。

今後とも、地域の課題を関係者がタイムリーに持ち寄り、課題分析、対応策の検討、役割分担、実践、評価等を協働で行うことのできる連携会議となるよう引き続き努力していきたい。

以上

新川地域（魚津市、黒部市、入善町、朝日町）にお住まいの産婦さんへ

出産後に利用できる相談窓口のお知らせ

赤ちゃんのお誕生、おめでとうございます。
初めての育児は、何かと不安なことがあったり、2人目以降のお子さんの場合は、うえのお子さんとの育児の両立に戸惑われることもあるかと思いますが、一人で悩まず、いつでも気軽にご相談ください。

よくある悩み	相談窓口(まずは気軽にご相談ください)
○ 赤ちゃんが泣いてばかりでどうしていいかわからない	★魚津市健康センター 0765-24-0415
○ おっぱいが足りているか心配	★黒部市保健センター 0765-65-0020
○ 赤ちゃんの体重が順調に増えているか心配	★入善町保健センター 0765-72-0343
○ 育児方法、これでもいいか自信が無い	★朝日町保健センター 0765-83-3309
○ イライラしてしまふ、怒りっぽい、理由もなく悲しい気分になる	各市町で利用できる主なサービス (市町によって内容が異なります。相談時にご確認ください。)
○ 育児について相談や協力してもらえ人が身近にいない	1 新生児訪問・赤ちゃん訪問
○ 家事と育児の両立ができない	2 沐浴(もくよく)
	3 母乳相談
	4 産後ホームヘルプサービス
	5 ファミリーサポート事業

●相談受付 平日(月～金) 8:30～17:15

その他の相談窓口については...

子育てテレフォン相談 ☆
(富山県富山児童相談所)
076-422-5110(電話)
※24時間、相談を受け付けています

赤ちゃんの急な病気についての相談は...

小児救急電話相談 #80000 をご利用ください。(携帯電話からのご利用も可能です)
平日、休日問わず、年間を通じて午後7時から翌朝9時まで いつでも利用できます。
★休日・夜間の急なお子さんの病気にどう対処したらよいか、また、医師の診察を受けたほうがいいのかなど、困った場合にお電話下さい。
★局番なしの「#(シャープ)8000」または「076-444-1099」まで、お電話ください。
県が契約している相談窓口へ自動転送され、医師や看護師からアドバイスを受けることができます。

<発行> 魚津市健康センター、黒部市保健センター、入善町保健センター、朝日町保健センター、富山県新川厚生センター(0765-52-1224)